

健康診査(特定健診・がん検診)に関する

数字で分かるいろいろなこと。



健診について知らないことがいっぱい。そもそも対象は？費用ってどれくらい？未受診だとどんなリスクがあるの？

がん検診の対象年齢

20 歳以上

35 歳以上

女性は20歳で子宮頸がん検診、男性は35歳で胃がん検診の対象になり、年齢に応じて項目が追加になります。

特定健診の対象年齢

40 歳以上

特定健診は各医療保険者が実施しており、市が行う特定健診は、国民健康保険加入者の男女共に40歳以上が対象です。

健診にかかる費用

特定健診 **¥ 800**

がん検診 **¥ 500**

~2,000

特定健診と同じ内容を受けようとするとも1万円以上かかることもありますが、特定健診を活用することで費用を大幅に抑えて身体のチェックをすることができます。

がん検診は項目ごとに金額が異なります。また、沼津市では70歳以上になると無料で受けることができます。

特定健診・がん検診の対象者

市民の **5人に4人**

対象者は約15万人います。

特定健診の受診率

たった **33%**

市がかかげる受診率の目標は60%ですが、現在はその約半分に留まります。コロナ禍で受診控えの傾向にあります。過度な受診控えは健康上のリスクを高めてしまうことにもなりかねません。

受診率の低い層

40~50 歳代の **男性**

働き盛りの人の受診率が低くなっています。この年代はがん罹患率が増加している年代でもあり、日々の生活が忙しくても、健康に自信があっても、健診を受けることを強くお勧めします。

特定健診の継続受診者

3人に2人

40~60歳代の受診者のうち、3人に2人が2年連続で特定健診を受けています。車の点検のように、身体も毎年メンテナンスしていくことが大切です。

特定健診受診者のうちメタボ

(予備群含む)の人の **3割**

(令和2年度特定健康診査・特定保健指導実施結果報告(法定報告)より)
特定健診受診者のうち、メタボ該当者と予備群を足した割合は約3割です。見た目だけでは判断できないため、まずは健診で確認しましょう。

がん検診の受診率が50%になったら助かる命

(※大腸がん・胃がん・肺がん検診)

年間 **20,175人**

例えば、全国で大腸がん・胃がん・肺がん検診を受ける人の割合が50%になった場合、年間に助かる命はこれだけ増えるというデータがあります。皆さん1人ひとりの受診が、多くの人の命を救うことに繋がるのです。

※健診とは、健康診査の略で特定健診・がん検診が含まれます。

これからも大切な人たちと笑い合っているために **特集**
特定健診・がん検診を受けよう



一年に一度、自分の健康と向き合いませんか？

皆さんは、特定健診やがん検診を受診したことがありますか。特定健診とは、メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)に着目した健診で、生活習慣病になる前の予防を重視していることが特徴です。
病気が進行すると、治療に要する日数や医療費が増え、保険給付を行っている健康保険事業を圧迫し、被保険者(加入者)の負担増にも繋がります。特定健診は、医療費高騰の原因とされる糖尿病などの生活習慣病の早期発見・早期治療を目的に、国全体の生活習慣病予防対策として導入され、各健康保険を運営する医療保険者が実施しています。市では、このうち国民健康保険に加入している40歳以上の人を対象に特定健診を実施しています。
また、がん検診は自覚症状がないがんを早期に発見し、治療に結びつけるための検査です。各項目の対象年齢となった全ての市民に対し、がん検診を実施しています。現在、日本人の死因の第一位はがん、二人に一人ががんになる時代ですが、早期発見すれば五年後の生存率は90%以上で、今やがんは治る病気とされています。
自分のため、家族のため、ひいては皆のため、一年に一度、自分の健康と向き合いませんか。